



学校だより

令和4年 4月 28日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokiگاoka>



自分の言葉で

校長 仲川 美世子

令和2年3月、学校は突然の休校に入りました。それからの丸2年、感染を広げないためにはなるべく人との距離を置くことが大切と、「間を開けて」「大きい声を出さないで」という指導を重ねてきました。それはそれでとても大切なことなのですが、それによって薄くなってしまったことが「人との関わり」だと思っています。子どもたちの学びや成長には人や物と直接関わるのが大切だとずっと言われてきているのに、それを制限する必要が生じてしまったのです。この2年の間に子どもたちだけではなく、多くの人がいろいろな貴重な機会を逃してきたことでしょう。

日本人は、多くを語らなくても、はっきり言葉にしなくても表情や仕草から相手の気持ちを慮ることができるとされてきました。そんな私たちから表情を見えにくくしてしまう「マスク」が必需品となり、相手の気持ちを読むことが難しくなりました。家族以外の人の素顔を見ることがほとんどなくなり、今や街中にマスクを外して出るのは服を着ないで人前に出るような気がするとう街頭インタビューで答えている人がいました。とても気持ちがわかります。

そうして過ごしてきた今、少しずつ「with コロナ」の方法も身につけてきました。マスクと熱中症との兼ね合いから、時と場に応じてマスクを上手に外す必要もわかってきました。であるならば、しゃべらないと決めてマスクを外したり、話をするからマスクを正しくつけたりする臨機応変さをきちんと身につけ、集団生活を送りたいです。そして、マスクをつけているからこそ、必要なことを相手に伝えるように話すということも身につけなければなりません。



職員室の入り口に「『〇年〇組 〇〇です。〇〇先生に用事があってきました。』と言いましょ。う。」という立て札がたっています。新年度になって、初めて掃除のために特別教室の鍵を取りに来る児童がその立て札をじっと見つめて意を決して「〇年〇組の……」と言いかけては詰まってやり直し、を繰り返すシーンが何度も見られています。本校は保健室が教室から離れたところにあるので、具合が悪かったりけがをしたりした児童も職員室を訪ねてくることが多いです。職員室では困っていたら手助けしますが、なるべくその児童が自分の言葉で言えるように見守ります。決まり切った定型の言葉が言えることも大切ですが、何をしに来たのか、何がしたいのか、自分の言葉ではっきりと言えるようになることがこれからの世の中でますます求められることだと思います。

今日も職員室で繰り返されています。「何年何組のだれですか?」「何をしに来たの?」「書いてあるとおりじゃなくてもいいよ、自分の言葉で言ってごらん。」